

吉野作造 — エスペラントの先駆者



後藤 斉

第53回東北エスペラント大会

2012-10-27

仙台市太白区 秋保の郷 ばんじ家

概要

- 大正デモクラシーの旗手吉野作造は、1903年にエスペラントを紹介し、学習し始めた日本エスペラント運動の先駆者の一人である。
- 吉野は1919年にエスペラントを再開し、20年から日本エスペラント学会理事になる。その学習の動機には、朝鮮や中国との関係があった。

1. はじめに

『河北新報』1924(大正13)年4月17日

時局問題講演

朝日新聞主催の時局問題講演会は昨十六日午後四時より西公園公會堂において開催せられたが聴衆二千餘名立錫の餘地なき盛況を呈した先づ小川島同社支局長開會の挨拶を述べ次いで法學博士吉村作造氏「選挙と代表」と題し前貸族院書記官長柳田國男氏「政治の青年化」前滋瀨民政長官法學博士下村宏氏は「刻下の政局に面して」と題し何れも簡樸最も適切なる講演を試み聴衆に多大の感動を興へ七時閉會を告げたたほ下村・柳田本野三氏の市内官民合同歓迎會は同七時半より東一精養軒で開かれたが參會者三百名これまた盛況であつた

柳田氏の講話

仙臺エスベランチストは昨晩八時から柳田國男氏を内ヶ崎コーヒー店に招待歐洲に於けるエスベランチの普及状況に關する氏の講話を聞いた

1. はじめに

RO 1926.10

第14回日本エスぺラント大会

9.24-26 於東京市青山 日本青年館

...次いで柳田國男氏登壇議長就任の挨拶をせられ議長席につかる。...こゝで柳田名議長はこれらをうまくさばいて次のやうな決議をすることを満場にとうて満場一致で可決して紛糾した問題は解決した。

19時過やつと食卓の用意ができたので一同着席食事が始まり杯の数を重ねるに随つてエスぺラントの雰囲気は濃密の度をましてくる。...次いで柳田國男氏が立つて日本の同志の大同団結を慫慂された。

第十四回日本エス大会寫眞畫報



1. はじめに

下村 宏 (号海南)

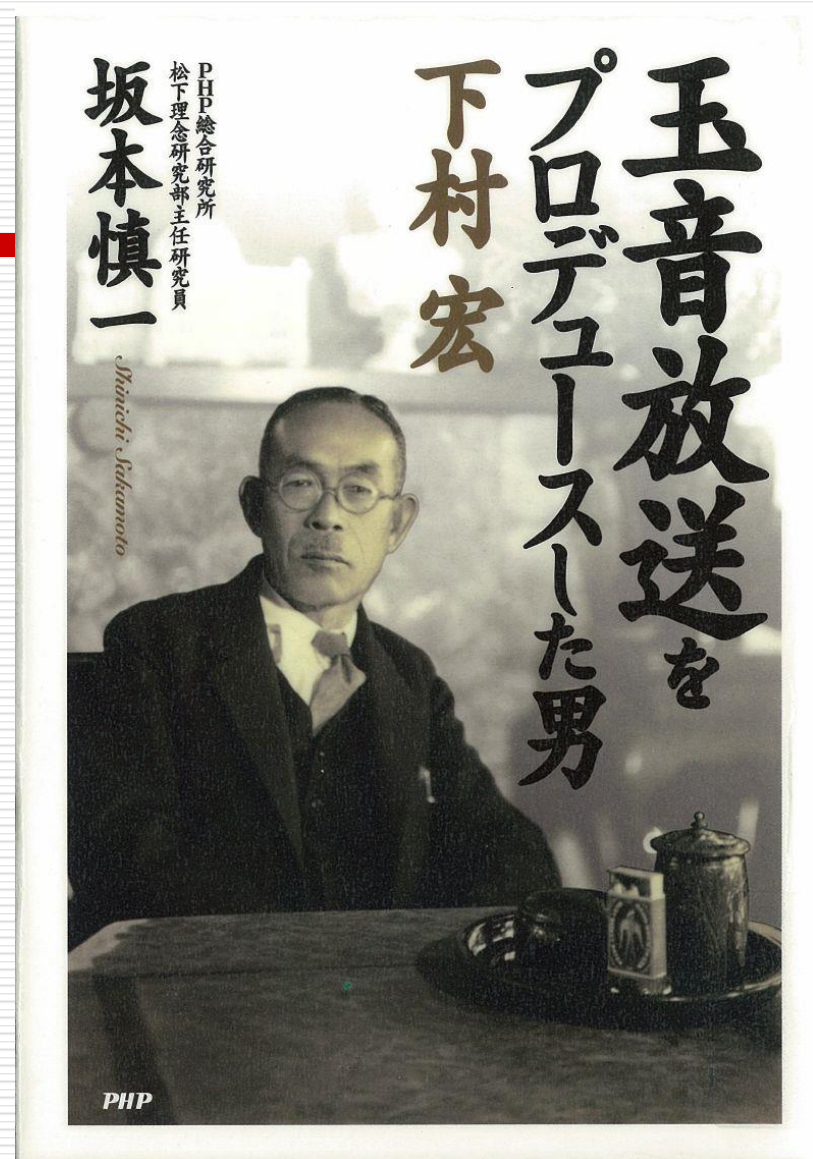
1875~1957

1915年 台湾民政局長官

1921年 朝日新聞社専務

1943年 日本放送協会会長

1945年 国務大臣内閣情報局総裁



1. はじめに

下村 宏

『欧米より故国を』

(丁未出版社, 1922)

1921~22年欧米視察旅行記

p.398.

【エスペラント】 十七世紀にライブニッツ氏國際語を唱導してより一八一七年露のツアメンホフ氏のエスペラント語の出づる迄、七八種も創造された近かく佛のボロン侯のイロ語も簡易なりといふが、兎に角エスペラントは國際間の補助語副用語として益行はれて來た、殊に近時愛蘭ではゲーキック語チエックではチエック語白國ではフラマン語の獨立運動がある、一層此種の用語を必要とする倫敦巴里の商業會議所では古くよりエスペラント語の奨励に力を致してゐる、労働組合に至りては大小實用に供してゐる一九二〇年の武府の國際協會聯合世界大會はエスペラント運動の参加に一致した、國際聯盟第二回總會は全世界人民間の直接理解を容易ならしむる爲、エスペラントを各國公立學校にて教授するを目的とする決議案を出した、之れは總會委員會を通過したが、ガブリエル・アノトー氏の爲め否決されたが聯盟の公用語となるは遠きことではない、我國でもエスペラントには相當注意を拂うて貰ひ度い。

2. 吉野作造

吉野作造記念館

www.yoshinosakuzou.jp

宮城県大崎市古川

大正デモクラシーの旗手・民主主義の父吉野作造の故郷古川 吉野作造記念館ホームページへようこそ -大正デモクラシーの生誕地...

www.yoshinosakuzou.jp

デモクラシーの生誕地
吉野作造記念館
0229-23-7100

ホーム | 吉野作造記念館の施設のご案内 | 入館料について | 交通アクセス | イベント開催情報 | お問い合わせ

吉野作造記念館
メールマガジン
定期的に当館のオススメ情報を
メール配信いたします!!
メールアドレスをご入力ください
登録

印刷してすぐ使える!
入館割引券
入館割引券でお得な特別価格に!

記念館について
Museum Information

- ご利用案内・入館料
- 施設のご紹介
- 交通アクセス
- 会場の貸出
- イベント情報
- 刊行物のご案内
- 吉野作造記念館だよ!
- 所蔵資料
- 当館への社会科見学

吉野作造について
About Yoshino Sakuzou

- 吉野作造の人物像
- 吉野作造の周辺の人々
- 吉野作造のこまれ話
- 吉野作造記念館の一品
- 読売・吉野作造賞

吉野作造記念館のご案内

- 開館時間
午前9時～午後5時
- 休館日
月曜日(但し休日・振替休日
に当たる場合は翌日)

見る & 参加する

■企画展「知の普及と出版-吉野作造とエヌヴァーシティ・エクステンション-」 NEW
江戸から明治・大正・昭和にかけて、人々に学問や教育を
広めるための様々な普及活動や出版文化が発展しま
した。近代以前における大崎地方の教育の伝統、近現
代の日本におけるオピニオン・リーダーとして活躍した
福澤諭吉・吉野作造・丸山眞実らの活動に注目し、知識
や教養、学びのあり方を問い直します。
期間 11月18日(日)～2月11日(月)
料金 大人・個人500円
(常設展見学可能)
日時 11月18日(日)10時～
料金 大人・個人500円
(企画展・常設展見学可能)

■第13回 読売・吉野作造賞受賞者講演会
講師 竹内洋氏(関西大学東京センター長)
演題 「佐渡島の二人の政治家と敗戦後日本 -一田八郎と北吟吉-」 NEW
日時 平成24年12月2日(日)14時開演
料金 一般・個人500円(常設展・企画展の見学可能)
定員 90名
会場 当館 研修室
申込 電話申し込み必要
(電話0229-23-7100)

講演会当日は、受賞著書「革新幻想の戦後史」を
先生のサイン入りで限定10冊を販売いたします。
■「ひと×つくる」= 展 開催のお知らせ NEW チラシ詳細 → PDF
※読み方(ひと×つくる・てん)

2. 吉野作造

- 1878 現大崎市に生まれる
- 1897 宮城県尋常中学卒業
- 1900 第二高等学校卒業
- 1900 東京帝大法科大学入学
本郷教会で『新人』の編集に参加
- 1904 東京帝大卒業
- 1909 東京帝大助教授
- 1910 3年間欧米留学
- 1914 東京帝大教授
- 1920 日本エスペラント学会評議員
- 1924 東大を辞し、朝日新聞社
顧問となるも、間もなく退社
- 1933 逗子のサナトリウムで没

デモクラシーの生誕地
吉野作造記念館

ホームページ | 吉野作造記念館の施設のご案内 | 入館料について | 交通アクセス | イベント開催情報 | お問い合わせ

吉野作造の人物像

民本主義の実現のために奔走した作造の生涯
吉野作造について

1878年に宮城県志田郡大柵村(現在の宮城県大崎市古川)生まれ。東京帝国大学教授法学博士。「民本主義」を主張し、大正デモクラシーの中心となった人物。「民本主義」を主張し、大正デモクラシーの中心となった人物。

● 吉野作造プロフィール ● 吉野作造の生涯年表

吉野作造プロフィール

どんな活躍をした人?	1878年1月29日、宮城県志田郡大柵村(現在の宮城県大崎市古川)生まれ。東京帝国大学教授法学博士。「民本主義」を主張し、大正デモクラシーの中心となった人物。
誕生日	1878年(明治11)1月29日 水瓶座
体 型	身長 約165cm の やせ型
特徴・ポイント	大きな目と大きな耳
職 業	東京帝国大学教授(現在の東京大学、法学部で政治史を担当)その他、朝日新聞社論説委員、袁世凱の息子の家庭教師なども経験。
趣 味	変居見物、古本集め、エスペラント語学習
習 い 事	ピアノ(大人になってから始めた。あまりまじめには練習しなかったのでたたくそだった。)
好きなスポーツ	テニス、スケート、自転車乗り
好きな食べ物	コンニャク(おでん屋さんでまいりもおかわりした)、釜揚げうどん
得意料理	だんご(ヨーロッパに留学したとき、腕前を披露した。)
健康法	乾布摩擦と特製栄養ドリンク(牛乳・卵・ブドウ酒のミックスドリンク)
得意なこと	意見の違う相手を納得させて仲良くすること
苦手なもの	東京弁(どうも仙台弁から抜け出せなくて...)
兄 弟	12人(姉2人、ぼく、第4人、妹5人)
子 供	7人(娘6人、息子1人)

吉野作造が目指した「民本主義」とは?
吉野作造が活躍していた当時、国を動かす政府の官僚たちは、国民の幸せより一部の人の都合を中心に考えていました。そこで吉野作造は「政治とは国民全体の幸福を中心に考えるべきだ」として、民衆を政治の根本におく「民本主義」を主張しました。

民本主義と民主主義の違いは何?

3. エスペラントとの接触

エスペラントと私

「日本エスペラントの始」と題する項中、「吾が國にてこの新言語の研究と普及とを計れるは明治三十九年ころよりのことなりとす。即ち三十八年の四五月頃、東京帝國大學教授文學博士黒板勝美エスペラントに關する談話を雜誌直言に掲げし時は絶て反應も無かりしが、翌三十九年の五月讀賣新聞に再び同氏の談話筆記を掲ぐるに及び漸く世間の注意を引けり」(二七五頁)とあるが、私は之より先き明治三十六年五月發行の「新人」誌上に「世界普通語エスペラント」と題し可なり詳細の紹介を公にしたことがある。之はその當時愛讀して居つた倫敦「レヴィー・オヴ・レヴィー」誌に出て居たウキリアム・ステッドの論文を譯したものであつた。

いま正確に記憶して居ないが、ステッドはその頃熱心なるエスペランティストであり、三十六年の春頃よりその主宰せる「レヴィー・オヴ・レヴィー」の每號の誌上にその普及宣傳の爲に一二頁を割いて居つた様に思ふ。二三月頃の號に彼れの詳細なる説明のあつたのに興味を感じ、直に之を譯して「新人」に寄せたのである。「新人」は海老名正先生の牧せる本郷教會の青年信徒の宣傳機關で、同先生を主筆とし大學々生たる私もその編輯同人の一人であつたのである。

吉野作造「『明治事物起原』を読んで」(『新旧時代』1926.12)

3. エスペラントとの接触

『明治事物起原』を読んで (『新旧時代』)第2年第9冊 1926(大正15)年12月
エスペラントと私

..... 私は之より先き明治三十六年五月発行の「新人」誌上に「世界普通語
エスペラント」と題し、可なり詳細の紹介を公にしたことがある。之はその当時
愛読して居つた倫敦「レヴィー・オヴ・レヴィー」誌に出て居たウキリアム・ス
テッドの論文を訳したものであつた。

「新人」への寄稿と同時に、「レヴィー・オヴ・レヴィー」の広告に依り、オーコ
ンノル著「エスペラント」と云ふ独案内を倫敦へ注文した。この本は今以て所
蔵して居るが、十一月十日着到の附記があるから、私も明治三十六年の十
一月から之を学び始めたと云ふわけになる。真面目にもやらなかつたし、又
間もなく中止したから、物には勿論ならなかつた。

そんな次第であるから、当時は黑板博士の様な熱心な研究家のあることを
しらなかつたし、又其後協会の創立を耳にしても入らうともしなかつた。

4. エスペラント再学習

『東京朝日新聞』 1919(大正8)年6月4日



青 來年十月一日夜半一齊
鉛 に行はれる國勢調査に
於て全國各世帯に配布
する「國勢調査申告書用
紙」は約一尺三寸位の

大ききの洋紙であるが物價騰貴の折柄一枚一錢につくといふ、して見ると全國千八百萬世帯に配布するには用紙代十八萬圓を要する譯で、配られた用紙を粗末にされては困ると牛塚局長早くから心配して居る。▲テモクラシーで名高い吉野博士は最近こつそりとエスペラント語の稽古をはじめた、尤も初めてアーボーツオーを試みはじめたのではなく今から二十年も前に既にその存在は知つてゐたといふがこゝに先頃排日運動で火の手あがた北京大學の文科教授で新進思想家と知られた錢玄同君が孔孟の教へを捨てて言文一致を探れといふ新支那の思想運動の上からエスペラント語使用を高唱してゐると聞かされてこそ吉野博士も背負つたままのエスペラント語の韻本や辭書を世間の埃かき下して研究室内に内々やつてゐるのだといつてもおぼろげな話である。

4. エスペラント再学習

吉野作造日記 1919年

- 5.31 午後エスペラント普及講演会に出席して一場の演説す 夜燕楽軒に開かれたるその会の招宴に臨む
- 6.1 此日より改めて露西亜語とエスペラント語との復習を始む
- 6.10 朝の中雑用を済ましエスペラントとロシア語の例規の研究をやる
- 7.17 此頃はエスペラントとロシア語とをやっている 我ながら相当に進歩しつゝ ありと思ふ
- 7.21 朝一寸エスペラント講習会に出席す 会館にてやる

4. エスペラント再学習

The Japan Advertiser 1920.4.2 New Thought in Japan

<p>The Japan Advertiser</p> <p>B. W. FLEISHER <i>Proprietor and Editor</i></p> <p>HUGH BYAS.....<i>Managing Editor</i> GLENN BABB.....<i>News Editor</i> YOSHIM BRYANT.....<i>Business Manager</i></p> <p><i>Editorial and Business Office</i> 12 YAMASHITA-CHO, KYOBASHI-KU, TOKYO Telephone, Ginza 1570, 1571 Telegraph Address, Advertiser Tokyo</p> <p>BRANCH OFFICES:</p> <p>YOKOHAMA...55 Main Street. Tel. Honkyoku 1649 Kobe...58 Naniwa-machi. Tel. Sanoamiya 3607 VLADIVOSTOK.....No. 2 Kitayskaya PEKING.....53 Shih Ta Jen Hutung SHANGHAI.....34 Nanking Road NEW YORK.....1 West 34th Street</p> <p>DO NOT ADDRESS COMMUNICATIONS TO INDIVIDUALS. Address all communications reaching to the Editorial Department and all letters intended for publication to the Editor. Address all communications relating to subscriptions, advertising and general business matters to the Business Manager.</p> <p>DEATH</p> <p>PARSONS—On February 22, 1920, at No. 8 Love Lane, Shanghai, Olive Mary Parsons, the beloved sister of Mr. and Mrs. Edward E. Parsons, formerly of Auckland, New Zealand.</p> <p>TOKYO, FRIDAY, APRIL 2, 1920</p> <p>The Growth of Liberalism in Japan.</p>	<p>a question which foreign observers find it difficult to answer. To what extent does this wave of democracy influence the policy of the country? Four years ago the Japanese Minister to Peking was enunciating a broad live-and-let-live policy towards that country which, if it had been carried out, would have made the relations of the two countries much happier than they are. He was removed from Peking and his place filled by a diplomat who favors other methods. The army covered China with its representatives. Mr. Nishimoto, the personal emissary of a military Premier, played his part. The results we partly see. It is true that the long delayed decision to enter the Consortium means a better policy in China, but there have been other occasions when progress proved temporary. The weakness of liberalism in Japan is its failure to affect policy. Professor Yoshino in his claim that popular government is drawing nearer said that in 1898 the first democratic cabinet was formed and that liberal cabinets have alternated with bureaucratic ever since. The sequence is worth recording: Okuma Yamagata Ito Katsura</p>	<p>NEW THOUGHT IN JAPAN</p> <p>The Growth of Liberalism and Its Eventual Triumph.</p> <p>By Sakuzo Yoshino, Professor of Law at Tokyo Imperial University.</p> <p>The following is the substance of a lecture given recently by Professor Yoshino at a meeting in Tokyo of a group of foreign residents who are interested in the promotion of international friendship. It is a valuable</p> <p>stat dit ne on stuc My thoug I con probli conce and quest It Chine Japar know in China and Korea. At the same time, I realize that the Japanese Government</p>
		<p>Esperanto for Koreans.</p> <p>Out of many illustrations there are one or two which I would like to call to your attention. Since last summer some of us have been getting together with the Korean and Chinese students,</p>

4. エスペラント再学習

Sakuzo Yoshino. New Thought in Japan
“The Japan Advertiser” 1920.4.2

Since last summer some of us have been getting together with the Korean and Chinese students, ...
... some of the Japanese students have begun to feel that to ask these students to adopt our language ...
isn't treating them on a basis of equality. ...

So there has been an effort to get a language in which they can converse on an absolutely equal basis. Since September they have been meeting once a week studying Esperanto ...

Esperanto for Koreans.

Out of many illustrations there are one or two which I would like to call to your attention. Since last summer some of us have been getting together with the Korean and Chinese students, talking things over and trying to get a mutual understanding of each other's views. In these little conferences the language used was Japanese, but some of the Japanese students have begun to feel that to ask these students to adopt our language in these conferences isn't treating them on a basis of equality. It is making them adopt our language and putting them on a level below us. So there has been an effort to get a language in which they can converse on an absolutely equal basis. Since September they have been meeting once a week studying Esperanto in order that they might have a common language in which to converse with absolutely equal freedom. It simply shows the new atmosphere.

4. エスペラント再学習

The Japan Advertiser 1920.4.2
New Thought in Japan

...昨年夏以来、我々の幾人かが、朝鮮人や支那人の学生たちと会合し、いろいろ話し合って互いの見地を理解し合おうと試みている。これらの小会議で使われたのは日本語であるが、会議で我々の言語を用いるように要求するのは、朝鮮や支那の学生たちを平等に扱っていることにならないと感じる日本人学生が何人かいる。彼らに私達の言語を使わせ、私たちより一段下に置いていることになるからである。そこで、全く平等な立場で会話ができる言語を使う努力がなされている。この学生たちは、9月以来、自由平等に会話ができる共通言語を使う目的で、毎週一回エスペラント語を学ぶために集まっている...(太田・宮本訳による)

5. 影響

『デモクラシー』(新人会) 第1巻第7号 1919.10.15

◆◆◆ に 爲 の 和 平 の 遠 永 ◆◆◆

イシラクモデ

行發日五十月十

● 世界救拯と宗教連動
● 時評
● ザメンホフ博士とエスベラント
▲ 友愛會大會傍聽記
△ 新人會記事
□ 小説金魚

門田武雄
山崎一雄
村人語
町野重之



フホンメリ・ロヅラ

號七第卷一第

目次

□ 國際平和運動と大和民族
● 國際労働會議
● 萬國社會黨會議
■ 國際聯盟と労働黨
■ 國際主義とは何ぞや
■ 帝國と民主主義

赤松克麿
林野秋人
河西一郎
嘉治隆一
新明正道

この 生命 腰に この 懲念 二十 おお 浪の てし 厚い 私に その 炬火 おお おお 大に その 巖を (ハ

大正八年十月十二日 印刷納本
 大正八年十月十五日發行(毎月一回一日發行)

5. 影響

コスモ倶楽部

一九二〇年から一九二三年にかけて存在

思想団体としてのコスモ倶楽部の特徴は、「人類をして国民的憎悪、人種的偏見を去つて、本然互助友愛の生活に進ましめることを目的とする」（「規約」）、具体的にいえば、日本帝国主義のアジア侵略に反対する日本の社会主義者と民本主義者、および朝鮮と中国の留学生ナショナリストの交流を主目的とする国際的組織であったことである。

この組織の萌芽は一九一七年に吉野作造が東京帝国大学基督教青年会内に設けた参話会に求められる。……吉野の朝鮮人および中国人との接触はますます深まり、三一運動に際しては…同化政策を糾弾し、…。五四運動に際しては、…中国人留学生の救済に奔走した。

松尾「コスモ倶楽部小史」

5. 影響

LA KOSMO-KLUBO

1. Nia asocio estas nomate la Kosmo-Klubo, kaj ĝia ĉefa oficejo estas en Tokjo, Japanujo, ...
2. La Kosmo klubo celas ke, lasi la homaron forlasi naciemalmon kaj antaŭjuĝojn de rasoj, kaj ĝi la ĝustan vivon de la komuna helpado.
3. Tin, kiu konsentas al nia ideo, povas esti klubano per konatiĝo de plurmulto ol du klubanoj.
4. Pro plenumi ĝian propran celon, la klubo agadas en la sekvantajn taskojn.
 - a) Sociala kunsido de la klubanoj (unufojon, unumonato)
 - b) Kunsido por studado (neregule)
 - c) Parolado (plimulto ol du fojojn, unujaro)

...

La provizora oficejo de la Kosmo-Klubo.
La Imperia universitato Y.M.C.A.

まとめ

- 大正デモクラシーの旗手吉野作造は、1903年にエスペラントを紹介し、学習し始めた日本エスペラント運動の先駆者の一人である。
- 吉野は1919年にエスペラント学習を再開し、20年から日本エスペラント学会評議員になる。その学習の動機には、朝鮮や中国との関係における言語の平等という考えがあった。

参考文献

- 朝日新聞大阪本社社史編集室編 『村山龍平伝』 朝日新聞社, 1953.
- 大島義夫・宮本正男 『反体制エスぺラント運動史』 新版 三省堂, 1987.
- 坂本慎一 『玉音放送をプロデュースした男 下村宏』 PHP研究所, 2010.
- 下村 宏 『欧米より故国を』 丁未出版社, 1923.
- 下村 宏 『これからの日本 これからの世界』 新潮社, 1936.
- 日本エスぺラント運動50周年記念行事委員会 『日本エスぺラント運動資料 I 1906-1926』 同会, 1956.
- 初芝武美 『日本エスぺラント運動史』 日本エスぺラント学会, 1998.
- 藤間常太郎 「エスぺラントと朝日新聞」 R0 1939. 4.
- 松尾尊兌 「吉野作造と在日朝鮮人学生」 原弘二郎先生古稀記念会編 『原弘二郎先生古稀記念東西文化史論叢』 (同会, 1973) 所収.
- 松尾尊兌 「コスモ倶楽部小史」 『京都橘女子大学研究紀要』 26号(2000), pp. 19-58.
- 吉野作造 『吉野作造選集 14 日記二』 岩波書店, 1996.
- 吉野作造 太田雅夫・宮本由美訳 「吉野作造「日本における新思想」(1920)」 『桃山学院大学教育研究所研究紀要』 6号, 1997, pp. 199-218.

吉野作造 — エスペラントの先駆者

後藤 齊



**Dankon por via
afabla aŭskultado**